

加賀獅子頭

歴史と特色

天正11年(1583年)初代藩主前田利家が金沢城に入城した時、お祝いの獅子舞が盛大に行われたと言われ、以後隠れた武芸奨励策としても盛んになり、獅子頭も各町に一基、町の守護として名工を選んで彫刻させ、町会を誇示するものであった。また、個人の家でも男子出生のお祝いとして床の間に飾る風習があり、盛んに作られていた。藩の細工所の彫刻師や仏師等が獅子頭の製作にあたり、武田友月、沢阜忠平、杉井乗運の加賀3名工や大野弁吉等の名工が活躍した。

加賀獅子舞は棒振りか獅子を射とめるという珍しいもので、獅子頭は八方にらみの眼の配り方もすどく、他に比べ大きいのが特色である。

原木は、白山麓の桐を使用している。

历史和特色

1583年、第一代前田藩主入金泽城时，举行了盛大的狮子舞会。此后，狮子舞在祭祀活动中兴盛起来。非正式公开的武艺鼓励政策也开始兴起，狮子头作为各个町会的宝物被重视。与此同时，百姓家如有男孩出生也将此作为庆生吉祥物而被装饰起来。加賀獅子頭的特色是眼观六路八方，且眼睛大而锐利。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)・白山市(白山市)
主な製品名(主要产品名)	加賀獅子頭(加賀獅子頭)
主な生産者(主要生产者)	知田工房(知田工房) 〒920-2113 白山市八幡町98(白山市八幡町98) TEL (076) 272-1696

加賀獅子頭



加賀象嵌

歴史と特色

加賀藩2代藩主前田利長が、京都より後藤琢乘を招き、装剣技術を開発したのが起源と言われ、元禄時代には一般彫金のほか金属象嵌加飾の優れた作品ができていた。金属面の象嵌する紋様部分を0.1ミリ~0.2ミリの深さにタガネで刻り下げ、底部を広げる。そして紋様に別の色の金属をはめ込み上から鎚とタガネで打ちならす。打ち込んだ紋金がアリの部分に延び広がり抜け落ちないように固定される「平象嵌」の技法が特徴である。

藩政時代には、武具を中心に隆盛を極め、特に加賀象嵌鍍[あぶみ]は、天下の名品とされ、幕府諸大名に進献された。明治維新後、絶滅状態になったが、花瓶、香炉等の製造で復活し、戦中戦後の難関を経て、現在では、若手後継者も現れ、復興のきざしもみえている。

历史和特色

运用了平镶嵌技法的加賀象嵌是在第2代藩主的庇护下，作为刀剑等武器用具的装饰而发展起来的。特别是加賀象嵌的马鍍，是闻名天下的优秀作品而被进贡给幕府的各位大名。在现代，花瓶、香炉等的制造中也传承了这种传统的技法。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	花瓶、置物、茶道具、装身具(花瓶、陈设品、茶道用具、装饰品)
主な生産者(主要生产者)	加賀金工作家協会(加賀金工作家協会) 〒920-0942 金沢市小立野5-11-1 金沢美術工芸大学内 (金沢市小立野5-11-1 金泽美术工艺大学内) TEL (076) 262-3531 加賀象嵌伝承研究会(加賀象嵌传承研究会) 〒920-0845 金沢市瓢箪町8-33(金沢市瓢箪町8-33) TEL (076) 261-3919



加賀象嵌